

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。	・ 高校生としての身だしなみやマナーに最重点を置いて継続的に指導した結果、制服着用に関しては成果をあげた。今後も規範意識及び社会性を醸成するために教職員の共通理解の下で統一した指導を継続する必要がある。 ・ 授業規律の確立に重点を置き、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」にも一定の成果をあげた。学力の向上については一定の成果は現れたが全体の学力底上げが今後の課題である。「分かりやすい授業」とともに「力をつける授業」を一人ひとりの教員が意識した上で、教科としての取組が必要である。 ・ 京都フロンティア校として「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ、生徒の進路意識を醸成するとともに、高校卒業後の進路保障につなげることが必要である。 ・ 1年生の全員部活動等加入・活動を推進するとともに、Joyo Advance Clubの育成に努め、部活動の一層の活性化に向けて競技力の向上のみならず学校全体・地域との関わりを持った具体的な取組を継続する必要がある。	1 教職員相互のコミュニケーションを大切にし、個の持ち味を生かしながら、情報共有や連携・協力ができる環境づくりを行う。内外における学校評価に基づき、生徒や保護者のニーズを的確に把握し教育活動の点検及び改善に努める。 2 学習活動においては、日々の授業を大切にし、家庭学習の習慣を養い学習意欲の向上をめざす。また、部活動においては、常にチャレンジの気持ちを忘れずに部活動に打ち込める環境づくりを行い、帰属意識や母校愛の醸成に努める。 3 自己有用感を高め、常に規範意識を持ち人権尊重の涵養に努め、節度と自覚ある行動が取れる人間づくりをめざす。ソーシャルスキルトレーニングなどを通して合理的配慮の視点を持った他者を尊重する適切な対人関係の構築に取り組み、特別支援教育の指導に向けて強化を図る。 4 「TAG 城陽」による校内の取組を推進し、学校・家庭・地域が連携を深めキャリア教育の充実に努める。特に進路意識を高揚させるプログラムを精選し、京都フロンティア校の研究指定等を活用して進路希望の実現をめざす。 5 地域に愛される学校をめざし、学校説明会や幼・小・中学校訪問、城陽カップ、部活動交流など様々な機会を通して地元小中学生やその保護者、地域の方へ本校の魅力的な取組をホームページ等の広報活動をとおして積極的に発信する。 6 創立50周年に向け、進化を加速させるために、城陽50プロジェクト会議をとおして様々な取組を進める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	教育の質的向上を図るためのシステムを確立する。	・部長会議をはじめ各種会議を効率的に運営し、担任、教科担当、分掌間の意思の疎通を図る。 ・城陽50プロジェクト会議を充実させる。	B			・計画に従って実施できた。 ・城陽50プロジェクト会議を開催し新しい取組を実施した。
	学校関係者評価委員会、学校評価会議で達成度・課題を明確にして改善を図る。	・学校評価アンケートを全保護者対象に行い、幅広い意見を収集し課題を明確にする。	A	B	B	・保護者アンケートを全保護者対象に実施し、回答を全員に返すことができた。
教育課程の編成と実施	質の高い学力の向上をめざす。	・一人一人の進路希望の実現に向けた新しい教育課程を工夫する。 ・地域や本校生徒の状況を踏まえて教育課程を実践する。	B	B	B	・新学習指導要領の実施も踏まえ、今後もさらなる工夫を加えて特色ある学校を目指して行きたい。
教科指導	基礎学力も含めた全般的な学力を定着させる。	・大学生ボランティアの活用を図りながら、「基礎固め学習会」や「基礎補充」をより効果的に機能させ、成績不振生徒への指導を充実させることにより、中退・原級留置を防止する。 ・ベル着の徹底や授業開始および終了時のあいさつの徹底を全教職員で一致した指導をすることにより、落ち着いた規律ある学習環境づくりを目指す。 ・教科書、問題集、ノート等の私物の持ち帰りを徹底し、各教科で家庭学習を促す取組を計画・実践し、全教職員で一致した指導を行っていく。	A	A	A	・「基礎固め学習会」や「基礎補充」は計画的に実施できた。特に「基礎固め学習会」は教育ボランティアを積極的に活用し、成果を上げた。 ・落ち着いた規律ある学習環境づくりは一定の成果を上げた。 ・課題提出や持ち帰り指導等家庭学習を促す取組を行ったが、次年度に向けてより一層の取組を進める必要がある。 ・研修会・公開授業・授業アンケートを関連づけて行い、指導法の研鑽を未来にすることができた。
	教科指導力を高める。	・授業アンケートの活用や、公開授業の実施により、教員が指導方法の工夫・改善を相互に研鑽できるようにする。	A			
生徒指導	学校生活を中心に据えた基本的生活習慣を確立させる。	・基本的生活習慣の確立に向けて、H R 掲示や学年集会、全校集会などを通じて啓発指導を行う。	A			・基本的生活習慣の確立と身だしなみ指導については一定の成果を上げたが、予防的指導を強化していきたい。 ・挨拶についてはまだ不十分なところが感じられる。遅刻については、家庭との連携を密にしたことで予防効果が向上したが、常習者への対策を検討する必要がある。
		・学年教科と連携し、服装・頭髪・化粧・装身具などの身だしなみ指導を行う。 ・校門での挨拶指導及び遅刻指導を学年と連携し重点的に行う。元気のいい挨拶ができるように教員からも声かけをし、遅刻の多い生徒へは、家庭との連携を密に行い、遅刻10回を超える生徒が無くなることを目指す。	A B	A	A	
特別活動	運動部を中心に入部率を高め、部活動、生徒会活動、ボランティア活動を活性化する。	・Joy o A d v a n c e C l u bを中心に意識の向上と活動の活性化のための指導を行い、全体の入部率を男子は80%、女子は60%、運動部を50%に向上させる。	B			・全体の入部率は昨年より向上しているが、目標には届かなかった。次年度も継続して向上を図りたい。 ・生徒会を中心に、城陽市議会との意見交換会やフロンティア校発表会をはじめ、様々な活動を行うことができた。
		・生徒会活動を中心として、各委員会やボランティア活動を活性化させるとともに、広報活動を積極的に行う。	A	B	B	
人権教育	豊かな人権感覚を育てるために、学年や分掌・教科と連重の実践的態度を育む。	・3年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。 ・「人権教育だより」の発行を通じて、人権教育をすべての全教職員にフィードバックする。	A B	B	B	・教職員人権教育研修会は1回実施にとどまった。 ・「人権教育だより」は未発行に終わった。

進路指導	生徒の進路意識を早期に高め、受験に向けた意欲と学力を向上させる。	・「どれ道学習」や「分野別進路ガイダンス」等の進路意識を高揚させるプログラムを充実させ、家庭・地域との連携を柱とした「T A G城陽」の取組を推進する。 ・自ら進路を切り拓く能力や態度を養うために、進路補講、や学習合宿、土曜教室、業者模試等を積極的に実施する。 ・「進路のしおり」の充実を図り、最新の進路情報を適切に提供すると同時に、学年部との連携の中で生徒とのカウンセリング機能を高める。	A			・「T A G城陽」の取組は計画どおり実施できた。
安全管理	生徒が安心して学べるように環境整備・校内美化に努める。	・美化・安全点検を定期的に行い、環境美化活動を活性化させる。 ・保健委員会の活動を活性化し、委員会ニュース等を活用して、健康・安全や校内美化の啓発に努める。	A	A	A	・環境美化活動については計画どおりに行えた。 ・校内美化活動にも一定の成果を上げた。
財 務	生徒が安全・安心して学校生活を送れるよう、教育環境を確保する。	・就学支援事業や奨学金制度を周知し、安心して学校生活を送れるようにする。 ・施設設備のメンテナンスを向上させ、より良い教育環境を確保する。	A	A	A	・在学生徒向け奨学金、進学用奨学金ともに保護者向けに周知できた。 ・予算措置の不足のため、破損箇所危険箇所を職員の手作りで応急的に処置している状態である。
広報活動	地域からの信頼や期待に応え、本校の良さがよりよく伝わるよう広報活動を行う。	・各部活動顧問や分掌との連携を密にし、学校説明会・部活動体験の開催時期を見直すとともに、本校の魅力がより伝わる内容を企画する。 ・城陽高校N E W Sの年4回発行とともに、ホームページの更新回数については年200回以上を目指す。また、現行のメールサービスシステムの次年度廃止に伴い、新メールサービスへの円滑な移行を行う。	B	B	B	・各説明会については、開催時期・回数・内容ともに改善を加え実施した。来年度以降もより良い形を模索していきたい。 ・本校の特色や取組状況等を外部に向けて積極的に情報発信できた。次年度も地域から信頼される学校として情報発信を行いたい。
学 校 関 係 者 会 評 価 委 員 会 による 評 価	・城陽高校の目指している方向を理解していただいた。 ・地域から信頼されている学校であると評価していただいた。 ・個性を持った誇りある生徒を育成していただきたい。 ・式典での生徒の態度や大きく響く校歌や式歌に対して感動や賞賛の声をいただいた。					
次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	・授業規律の維持と、学力の伸長を一層はかるため、教職員の指導力向上に向けた学校全体の取組を継続して行う。 ・1年生の全員部活動等加入を継続するとともに、競技力の向上や質の高い部活動の一層の活性化に向けて具体的な取組を実施する。 ・ソーシャルスキルトレーニング等を通して合理的配慮の視点を持った他者を尊重する適切な対人関係の構築に取り組み、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」を実現する。 ・「T A G城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ、生徒に「なりたい自分」を考えさせる。 ・土曜日や長期休業を有効に活用した取組を実施し、家庭との連携を密にし進路保障につながる学力の育成に尽力する。 ・広報活動を一層強化し、地元の方々や小学校・中学校・教育関係機関に信頼される「地域に愛される学校」を目指す。					